



令和5年度が始まりました。学校での子どもたちは、新しい学級でやる気を持ち、活躍する姿が見られています。学年のスタートは、がんばりすぎてしまう時期ですので、ご家庭でもお子さんの心身の様子を気にかけていただけると幸いです。

さて、現在、学校における定期健康診断を実施しています。内科検診につきましては、全学年、以下の通りに実施いたします。ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いします。

なお、ご不明な点やご心配な点がありましたら、担任までご連絡ください。

内科検診の目的

- 1) 児童自身に健康状態に関心をもたせ、生活習慣を見直すきっかけをつくる。
- 2) 潜在的な疾患を見つけるためのスクリーニングの役割を担う。

調べる項目

全項目、他の児童から見えないように区切られたスペース内で検診を行います。学校で行う内科検診では、病院での診察とは違い、全身を総合的に見ます。

- 1) 栄養状態・・・皮膚の色や光沢、貧血の有無、皮下脂肪の状態、筋肉や骨格の発達の程度について視診で検査します。
- 2) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態
・・・「運動器健診調査票」よりチェックのあった項目と、視診や触診により側弯症がないか検査します。
- 3) 皮膚疾患・耳鼻咽喉疾患の有無
・・・学校生活に影響をあたえ、積極的な治療や配慮が必要な疾患を早期に発見するために行います。
- 4) 心臓の疾病および異常の有無
・・・心疾患を早期に発見し、心臓突然死を可能な限り未然に防ぐために行います。
※児童の服装は、体操服を着用します。
※医師は聴診器の膜面とベル面を使い分け、呼吸音や心音を聴取します。衣類と聴診器が触れて雑音が入らないようにするために、下着を上げる・前方に引くなどして、聴診器を心臓の上に当てて聴診します。衣服を脱いで検診することはありません。
- 5) 結核精密検査該当者のスクリーニング・・・「結核検診問診票」を参考に検討します。

事後措置

内科検診で所見が見られた場合は、「受診のおすすめ」をお渡しいたします。受診や経過観察のほど、よろしくお願いします。

<参考>

★側弯症

脊柱が曲がったり、ねじれたりする病気です。原因は今のところ分かっていません。感染する病気ではありません。

側弯症には二種類あり、1) 機能性側弯症、2) 構築性側弯症に分けられます。機能性側弯症は一時的なものであり、姿勢の悪さや左右の足の長さの違いが原因であると言われています。構築性側弯症の場合は先天性のものや外傷性のももありますが、そのうちの80～90%は原因不明の突発性側弯症だそうです。突発性側弯症は乳児期、学童期、思春期のいずれにも起こりますが、最も多いのは10歳以降の思春期だそうです。側弯症は小学校高学年から中学生までに最も多く発症し、特に女子の発症が男子の5～7倍と言われています。

★心臓突然死

突然死の原因をみると、心臓に起因したと思われるものが全体の80%を占めています。主な原因疾患は、先天性心疾患、心筋症、一部の不整脈です。突然死発生の状況は、運動中、もしくは運動直後に起こるなど、運動との関係が強く示唆されています。器質的な疾患をみつけるだけでなく、日常における運動の仕方や生活習慣も大切です。